都立大泉高等学校同窓会・いずみ会会誌

# 会報いずみ

第34号

会報いずみ　第34号
発　行　平成4年6月7日
編集人　橋本武彦
発行人　田中英道
発行所　いずみ会
〒178 練馬区東大泉5-3-1
都立大泉高校内
☎03-3924-0318
印刷所　㈲一光印刷所
〒176 練馬区旭丘1-67-8
☎03-3953-3336

## 新会長に田中英道氏（中2期）

### 平成四年度幹事会開く

平成四年度（一九九二年度）のいずみ会幹事会は、四月二十五日、練馬区中村橋のサンライフ練馬において会員六十七名（うち幹事六十四名）の出席をもって盛大に行なわれた。

大竹恭麿会長（中3期）の開会挨拶に続き、議長に西沢正博氏（高28期）を推薦、議事録署名人には鈴木哲氏（高16期）が指名されて、議事に入った。

平成二年度、三年度および協賛会の事業報告、決算報告が中山茂雄事務局長（高3期）よりあったが、鈴木哲氏より、決算報告の詳細内容の提示の要求が出された。決算承認についてはこれをきっかけに、多数の幹事より、毅然とした指摘や、建設的な白熱した意見交換が行なわれた。再度にわたる採決により、最終的には、新会長の指名した監事によって、会計監査を受けることを条件に、決算報告は仮承認された。現在鈴木哲氏を委員長とする監査委員会で鋭意監査を進めている。

次に、今年度の事業計画および暫定予算案が承認され、続いて昭和五十四年（一九七九年）四月一日より在任の大竹会長、藤森久明、榊原剛の両副会長、中山事務局長の退任および、大竹会長の推薦による田中英道新会長（中2期）の就任が、拍手をもって承認された。

この後、事務局長ほか新役員の指名が行なわれた。就任した橋本武彦新事務局長（高11期）より新役員の紹介が行なわれた。また、組織や会費のあり方を新しくするために、規約改正も含めて検討作業を行なうことについても承認された。

最後に、十三年間にわたり、いずみ会を支えてこられた大竹前会長と中山前事務局長に、謝意を込めた盛大な拍手を送り、閉会した。（寺章夫＝高20期）

新会長に就任し、あいさつする田中英道氏（4月25日、サンライフ練馬で）

## 事務局長は橋本武彦氏（高11期）

## これからの活動について論議

いずみ会代表幹事会は五月二十三日、大泉高校会議室で開かれ、六月七日の総会についての打ち合わせ、準備などについて論議した。

また、会の活性化をはかるためには、まず代表幹事が各期をまとめてゆくことが第一として、①代表幹事が選出されていない期については人選をうながす②住所不明者の調査を進めるなどの点を確認した。

さらにいずみ会を今後どのように運営してゆくかについて、財政面や、事務局の円滑な活動、どのような行事を実施するかなどについて、意見を交換した。とくに財政については、これまでのように会費徴収は高校卒業時だけという体制で、会員に支持されるような会の運営ができるかについて、突っ込んだ話し合いがもたれた。

また同月三十日の理事会では、今後の会のあり方を考えるための定期的な話し合いの場をつくることが合意された。

（中村謙＝高18期）

# みんなのいずみ会めざして

新会長　田中英道（中2期）

会員の皆さん、初めまして……。

このたび、四月二十五日の代表幹事会で決定され、会長の大役をお引き受けすることになりました。

昭和五十五年（一九八〇年）から父の後を受け、大泉高校の歯科校医として現役の生徒の健康管理を担う一方で、同窓生相互の和と連携を図り、同窓会活動の進展を促進するというのには、いささか荷が重すぎはしないかと案じております。しかし、意欲的かつ有能な役員の方々のご援助ご協力のもとに、私なりに地道な努力をしたいと思いますので、会員の皆様方のあたたかいご支援とご叱正をお願いいたします。

さて、昭和十六年（一九四一年）に府立二十中として産声をあげたわが大泉も、いつしか五十年の歳月を経て、同窓生も一万八千余を擁する規模に成長しました。同窓会もこの規模になりますと、もはやその運営を一部の有志の方々に頼ってばかりいられません。

このため、いずみ会の組織の基本的な見直しにより、機構の改革と運営の合理化、活性化を現状に合わせて実施せざるを得ないと思います。その一環として、規約の改正により、会の意思決定方法の合理化、事務局の充実、会計の明朗・明確化、会費制導入等による財政基盤の確立などを検討し、具体化していきたいと考えております。

同窓会の第一目標は、会員相互の親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することであります。その手段としての基本的なものは、会と会員とを結ぶ動脈としての会員名簿の完備と会報の発行だと考えます。

これらを円滑に実行するためには、役員の努力はもとより、会員の皆様方の資料、情報の提供、寄稿等のご協力と、それ相応の資金的な裏付けがなければ、成功はおぼつきません。

いずれも各期の活発な活動のエネルギーが源泉となって、初めて実現するものと考えられます。

学んだ時代はそれぞれに違っていても、大泉で若き日を過ごした会員の皆様に、このいずみ会活動へのご理解とご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

## 新役員の顔ぶれ

（かっこ内の数字は卒業の期。中とあるのは中学の略）

| 役員担当 | 理事 | 常任幹事 |
|---|---|---|
| 会長 | 田中英道（中2） | |
| 副会長 | 新木敬治（2） | |
| | 山田清子（7） | |
| 事務局長 | 橋本武彦（11） | |
| 総務・企画 | 戸田一誠（13） | 真柳　仁（24） |
| | 西沢正博（28） | 宇田正行（25） |
| | | 服部秀治（35） |
| | | 伊藤　勲（40） |
| | | 浅井景子（41） |
| 会計 | 梅沢やよい（6） | 大久保靖（29） |
| | 富田順子（11） | |
| 会報 | 中村　謙（18） | 吉田登代子（14） |
| | 植村　久（21） | 鑓田政信（32） |
| | | 仲沢浩一（32） |
| | | 五味ちあき（34） |

| 役員担当 | 理事 | 常任幹事 |
|---|---|---|
| | | 平松香子（40） |
| | | 畑　慶明（43） |
| 書記 | 日高周子（4） | 松原由紀（41） |
| | 寺　章夫（20） | |
| 名簿 | 吉田　寛（25） | 高橋健三（4） |
| | 沼田英一（26） | 横山由美子（26） |
| | | 後藤花織（43） |
| | | 木村眞智子（43・補佐） |
| 監事 | 春日　孟（中1） | |
| | 菊谷義美（中2） | |
| | 遠藤　寛（7） | |
| | 鈴木　哲（16） | |
| （顧問） | 田中公一 | （都立大泉高校校長） |

## 平成四年度人事異動

（平成四年四月一日付）

都立大泉高等学校

★教員（転出）

田中暎二（教頭）　武蔵丘高（校長）

★事務職員

原田清美（国語）　豊島高
宇田川修（数学）　戸山高
荒井徹夫（生物）　退職
山田政和（化学）　荻窪高
佐藤哲司（英語）　北園高
山市豊子　江東養護学校
長田直子　東村山高
柴崎佳代子　牛込商業
大隅　暢　村山養護学校
青柳和美　小岩養護学校
大林志津江　練馬工業
田代志げ子　大泉学園高
須藤蓁子　退職

（転入）

★教員

若林明弘（教頭）　三田高
幾島和子（生物）　井草高

★事務職員

上江清司　牛込栄町小
飯塚弘之　都建設局
丸山秀一　豊島高
藤井佳代　新規採用
木曽康子　牛込商業
内田　勇　石神井養護学校

（嘱託）

（敬称略）

# 新たなる決意をひめて

事務局長　橋本武彦（高11期）

田中会長と同時に新事務局長に任ぜられました橋本でございます。会長が言われるように「みんなのいずみ会」をめざし、みなさま方のそれぞれのお力をお借りしてひたすら邁進してまいりたいと考えております。

さて、徳川家康が江戸に幕府を開いたのが一六〇三年、かれこれ四百年も前のことになります。外交政策で鎖国を行なったため、やや暗いイメージがありますが、日本を統治するにあたって、必要最小限のことをするだけだったことは、注目されてよいと思います。即ち内政では基本的には各藩間の調整を行なうのみで、藩内のことは各藩に権限を与えて為政を行なわせたため、伊達、会津をはじめ、長州、薩摩などに、特色ある地方文化が繁栄していました。江戸幕府はいわば「小さい政府」であったわけです。

いずみ会をさらに発展させればゆくために、長期に安定し、新しい文化を創造した江戸時代の、この政治システムを参考にしたいと考えております。つまり、いずみ会事務局を「小さな政府」である幕府に、卒業各期を藩にみたててみたい。事務局は連絡、調整役に徹し、各期のことは、できるだけ各期の自主性を尊重し、任せていこうというわけです。そこで新事務局としては当面、

①会の動脈として、血のかよった連絡体制を作ること

②いずみ会報を早急に発行し、この体制に乗せて皆様にお届けすること

この二点に力を注ぎたいと考えております。

しかし、会長も言っておられますように、これらをスムーズに実行するには、たとえ「小さな政府」といえども、どうしても財政的な裏付けが必要になります。現在の会の財政状態では、実現は相当困難と思われます。そこで会長の諮問機関である規約改正委員会を発足させ、現在これを中心に、組織改善や新たな運営方法を検討しているところです。いずれにしましても、会員の皆様方のご協力なくしては、いまや会員二万人に迫る大所帯となったいずみ会の事務局活動は実現いたしません。惜しみないご協力を重ねてお願いする次第です。

新事務局には各期の代表の方が入っておられますので、代表を通じて、または直接事務局まで、今後のいずみ会のあり方についてのご意見などをいただければ幸いです。皆さんのいずみ会を、みなさんそれぞれの持っておられる力を結集して、発展させていこうではありませんか。そのためには藩に相当する各期の活動を充実させ、さらにいずみ会全体にも目を向けていただき、ご助力いただけるよう切望するところでございます。

私の微力が、いずみ会の発展に少しばかりでもお役に立てば、望外の慶びでございます。よろしくお願いいたします。

## いずみ会平成4年度暫定予算

（平成4年〔1992年〕4月1日～5年〔1993年〕3月31日）

| | |
|---|---|
| **1.収入** | |
| 前期繰越金 | 4,150,979 |
| **2.支出** | |
| 組織検討委員会費 | 300,000 |
| 総会費 | 450,000 |
| 会報費 | 330,000 |
| 名簿作成費 | 250,000 |
| 幹事会費 | 400,000 |
| 母校連絡費 | 100,000 |
| 雑費 | 100,000 |
| 予備費 | 500,000 |
| 次期繰越金 | 1,720,979 |
| 計 | 4,150,979 |

## 平成4年度予算支出状況報告

平成4年5月30日現在

| | |
|---|---|
| 組織検討委員会費 | 164,353 |
| 総会費 | 138,559 |
| 会報費 | 0 |
| 名簿作成費 | 7,517 |
| 幹事会費 | 117,486 |
| 母校連絡費 | 0 |
| 雑費 | 20,567 |
| 予備費 | 0 |
| 次期繰越金 | 0 |
| 計 | 448,482 |

〔注〕平成2年度、3年度の決算は、現在監査委員会（鉄木哲委員長）が監査中です。監査の終了をまって、次号（第35号）で報告する予定です。このため3年度の次期繰越金がまだ確定しておらず、4年度は、暫定予算を組んでいます。

なお、これまで暫定措置として予算年度を6月1日から翌年5月31日までとしていましたが、平成4年度から規約どおり、4月1日から翌年3月31日までとします。

このため、平成4年度（平成5年3月）卒業の新入会員の入会金は、本年度予算の収入として計上していません。

平成5年度いずみ会予算の収入として計上する予定です。

（見込み405名×5,000円＝2,025,000円）

平成三年（一九九一年）十月十二日、都立大泉高等学校創立五十周年を祝う会には会員皆様の並々ならぬご努力ご協力に依り、千二百名（千三百万円の寄付）の協賛と三百名の出席を得て、あの様な立派な式典、心暖まる祝宴を持ち、その上素晴らしい記念誌「大泉50年」を創ることができ、大変嬉しく、深く感謝しております。当日母校でも記念式典があり、塚田圭一君（高4期）の講演、玉利美哉子さん（高24期）のチェンバロ演奏、栗林義信君（高4期）のバリトン独唱が、和やかな雰囲気のなか、とり行われました。

振り返って見ますれば、池辺洋元会長の後、昭和五十四年（一九七九年）一月、会長職をお引き受けして以来、平成四年（一九九二年）四月までの十四年間勤めさせていただきました。この間「いずみ会」としては年一回の総会、名簿および「いずみ会報」の発行、母校との関係では、創立四十周年記念誌の発行、そして昭和六十年（一九八五年）六月には校舎の改築、新築時の協力、また「いずみ会入会式」、文化祭、体育祭への出席など、協力してまいりました。そして迎えた昨秋の創立五十周年記念事業でありました。

いずみ会祝賀会実行委員会が設けられ、山谷実行委員長を中心に同窓の「顔」でもある中1期はもとより高43期まで、全期の方々が参加され、貴重な時間を割いてよく動き、汗を流してくれました。ほんとうに頭の下がる思いでした。

私も任期中多くの人と会い、お話する機会に恵まれました。同窓の皆さんはもとより、校長先生はじめ教職員、PTAの方々、性格も職業も色々です。異なった考え方、意見、知識も広がり、私自身少しは心が豊かになったようです。

今回の事業を通じて会員の希望に満ちた「力」を見ることができ、一万八千人余りの同窓生のためにも、新風を入れた方がよいと考え、私を始め、藤森久明、榊原剛両副会長および中山茂雄事務局長ともども、役員を辞任することにいたしました。小さな執行部での運営でしたが、私ども役員一同、頑張ってきたつもりです。しかし力不足のため、皆さまの労になにひとつ報いることができなかったこと、心苦しく思っております。

この度新会長になられた田中英道君を中心に、力強い組織のもと、魅力ある「いずみ会」となり、より多くの会員の集う「場」となるよう、心より願っております。

最後になりましたが、母校そして「いずみ会」が益々発展し、創立百周年に向かって歩んでいくことを念願します。これからは一会員として「会計」の仕事を心配せず、会に出席したいと思っております。

長い任期の今日まで、私を支えて下さったいずみ会の皆さん、ほんとうにありがとうございました。

## ありがとうみなさん

**前会長　大竹恭麿（中3期）**

昭和四十六年（一九七一年）に一度事務局長を退任した私に、昭和五十四年（一九七九年）ころでしたか、日頃から尊敬していた鰐川顧問からいずみ会のことで話があるからという電話があった。「もう一度俺と一緒にコンビを組まないか」といった趣旨だったと思う。指定されたU亭へと足を運んだ。とにかく話だけは聞いてみようと思ったからである。この時、その後十年間、苦しみをともにすることになった大竹会長を紹介された。電話の内容とかなり違うので、一度引退した私は大変困惑した。しかし、大竹会長のお人柄もさることながら、瀕死の状態にあった会の状況、それゆえに大泉高出身の教諭ということで、学校といずみ会のはざまにあって体調まで崩して苦労されているというK先生の窮状を聞かされて、結局はこの仕掛けにかかることになった。

会則の整備、苦しい財政。そうしたなかで、経常事業と特別事業を執行しなければならなかったし、加えていつもながら幹事の集まりが極めて悪かった。この時、私はやらなければならないという使命感をもった。経常事業として、六月の第一日曜日に母校で総会を開くこと。「いずみ会報」を発行すること。母校との連絡調整を図ることを三本柱に、始動した。

特別事業のなかで、とりわけ昭和五十六年（一九八一年）発行のいずみ会名簿は、資金の準備がないので、銀行からの借金という、前代未聞の方法で作らざるをえなかった。その他主な事業として、母校創立四十周年記念事業や母校改築に伴う旧体育館とり壊しの際のイヴェント、それに続く改築落成記念事業などの大きな事業を遂行した。大きな労苦の反面、感動的な懐旧の念が去来する。

総会の集まりが悪いこと。幹事会の集まりが思わしくないことも頭痛の種だった。そのようなことで私は常に若いパワーに感謝していた。少ない財政のなかから、幹事会後の集いや、総会の打ち上げなど楽しく思い出される。また何組もの結婚式や披露宴に招待された。何人かの就職のお手伝いをした。

多くのすばらしい恩師の訃報に悲しい思いもした。とくに本田正俊先生の他界は、世の常とはいえ、まことに残念であった。

最後に平成元年（一九八九年）から三年越しに頑張った母校創立五十周年記念事業は、生涯忘れえぬ大事業であった。過去の実績からして協賛金が思うように集まるだろうか。会を運営するスタッフの動員をどうしたらいいだろう。そして五十周年を記念して作ることになった名簿は果たして完成するだろうか、など……。幸い、多くの人の協力によってこの命がけの取り組みが、無事に終了したことに、こみあげる喜びを感じた。

申し上げたいことは山ほどあるが、とにかく大竹会長と微力ながら尽くしたこの十年間、職責を全うすることができた満足感をいだくと同時に、去り行く者として、しみじみと哀愁を禁じえない。ご協力をいただいた皆様、本当にありがとう。

## 事務局長を退任するにあたって

**前事務局長　中山茂雄（高3期）**

# 半世紀、大きな節目

校長　田中公一

本校同窓会の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。皆様には平素から本校の教育活動にご理解をいただき、何かとご協力を賜り、誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

さて、言うまでもないことですが、本校は太平洋戦争開始直前の、国を挙げて戦時体制が強化されていた昭和十六年（一九四一年）四月、府立第二十中学校として第一期の入学生を迎えました。以来半世紀、昨年は創立五十周年の記念式典が盛大に行なわれました。五十年という本校の大きな節目に、本校をお預かりする巡り合わせとなり、責任の重さを痛感いたしますとともに、その幸運をありがたく思っています。

創立五十周年記念事業を推進するにあたり、同窓会の皆様には一方ならぬご協力を賜り、深謝いたしております。ことに、推進の母体である協賛会には、会長として本会の大竹恭麿会長をお願いしたのをはじめ、多くの同窓会役員のかたがたに参加していただき、ご繁忙のところ三か年にわたって事業推進の要としてご尽力いただき、改めて御礼申し上げます。

平成三年（一九九一年）十月十二日の式典当日は、多くのかたがたのご臨席をいただいて晴れやかな式典、祝賀会となりました。式典では高四期の塚田圭一殿に記念講演を、記念演奏会では高4期の栗林義信殿にバリトン独唱を、高24期の玉利美哉子殿にチェンバロ独奏をお願いするなど、厳粛ななかにも華やかな雰囲気を醸し出していただきました。また、当日夕刻から母校創立五十周年記念のいずみ会祝賀会が港区六本木で開催され、四百名を越すいずみ会のかたがたがお集まりになり、本校同窓会の絆の強さを感じました。なお、協賛会会計の残金をもとに、本校生の心の拠り所である桜並木の維持、管理のために「五十周年記念さくら基金」を設立、活用させていただくことになりました。

さて、紙面をお借りして学校の現状をいささか報告いたします。教職員の異動では、二十四年間本校に勤務された生物の荒井徹夫先生が退職。武蔵丘高校長に栄進された田中暎二教頭先生はじめ、十二名の方が転出され、着任は九名を数えました。中学校卒業生の減少から、本校も一学年八学級となり、教職員も定数減となりました。この三月の生徒の進路状況は、国公立大学、有名私立大学とも例年と遜色のない進学結果を示しております。

部活動でも、都の代表として関東大会に出場するクラブも少なくなく、頑張っております。こうした成果も、後輩たちに対する同窓会の皆様のご理解とご協力のおかげと、ありがたく存じます。半世紀を越えて本校が、さらに創立百周年に向けて力強く歩み続けるべく、本校教職員一丸となって努力してまいります。

同窓会会長として永きにわたりご活躍いただいた大竹恭麿会長に代わり、新たに田中英道会長が、中山茂雄事務局長に代わり、橋本武彦事務局長がご就任されたと伺っております。在校生にとり、同窓生の先輩の皆様は誇りであり、目標であります。同窓会の発展は母校の発展でもあります。新会長、事務局長のもと、いずみ会のますますのご発展を祈念いたします。

## 大泉高校新・旧卒業生の進学・就職状況

国公立大学

| 大学名 | 新卒 | 旧卒 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 北海道 | | 1 | 1 |
| 東北 | | 1 | 1 |
| 筑波 | 1 | | 1 |
| 埼玉 | 4 | 5 | 9 |
| 千葉 | 3 | 3 | 6 |
| 東京 | 1 | 1 | 2 |
| 東京外語 | 1 | | 1 |
| 東京学芸 | 3 | 4 | 7 |
| 東京農工 | 1 | 9 | 10 |
| 東京工業 | 1 | 1 | 2 |
| 東京水産 | 1 | | 1 |
| 電気通信 | 2 | 2 | 4 |
| 一橋 | | 1 | 1 |
| 横浜国大 | 1 | 4 | 5 |
| 東京都立科技 | 1 | 7 | 8 |
| 東京市立 | | 2 | 2 |
| 横浜の | | 2 | 2 |
| その他 | 5 | 9 | 14 |
| 合計 | 25 | 52 | 77 |

私立大学

| 大学名 | 新卒 | 旧卒 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 青山学院 | 1 | 15 | 20 |
| 学習院 | 6 | 12 | 18 |
| 共立女子 | 7 | 1 | 8 |
| 慶応義塾 | 2 | 9 | 11 |
| 上智 | 3 | 8 | 11 |
| 成蹊 | 15 | 11 | 26 |
| 成城 | 1 | 6 | 7 |
| 中央 | 7 | 23 | 30 |
| 津田塾 | 3 | 3 | 6 |
| 東京女子 | 4 | 2 | 6 |
| 東京電機 | 6 | 9 | 15 |
| 東京理科 | 8 | 9 | 17 |
| 東洋 | 7 | 19 | 26 |
| 独協 | 4 | 8 | 12 |
| 日本 | 8 | 51 | 59 |
| 日本女子 | 4 | 2 | 6 |
| 法政 | 10 | 22 | 32 |
| 武蔵 | 6 | 12 | 18 |
| 明治 | 6 | 35 | 41 |
| 明治学院 | 3 | 6 | 9 |
| 立教 | 6 | 15 | 21 |
| 早稲田 | 7 | 16 | 23 |
| その他 | 102 | 200 | 302 |
| 合計 | 230 | 494 | 724 |

短期大学

| 大学名 | 新卒 | 旧卒 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 青山学院 | 6 | 2 | 8 |
| 跡見学園 | 2 | | 2 |
| 大妻 | 7 | | 7 |
| 学習院 | 3 | 3 | 6 |
| 共立女子 | 2 | 1 | 3 |
| 実践女子 | 2 | | 2 |
| 昭和女子 | 3 | 1 | 4 |
| 東洋女子 | 3 | | 3 |
| 都立商科 | 2 | | 2 |
| 明治 | 1 | | 1 |
| 立教女学院 | 8 | | 8 |
| 上智 | 1 | | 1 |
| その他 | 26 | 9 | 35 |
| 合計 | 66 | 16 | 82 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 専修各種学校等 | 11 | 7 | 18 |
| 就職 | 4 | 1 | 5 |

# いずみ会への参加呼び掛け

事務局長　橋本武彦（高11期）

このたびは、いずみ会の事務局長という大役を仰せつかり、その責任を十分はたせるかと心配です。とにかく一生懸命がんばるつもりでおりますので、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

さて、昨年は、母校大泉高校が満五十周年を迎え、お祝いの行事がはなやかに行なわれました。いずみ会でも、母校が主催する記念事業に協賛するということで、会員に協賛金の応募を呼びかけました。この結果、全体の応募者が千二百人、応募金額が千三百万円という大きな実績を達成しました。

また、母校の記念式典とは別に、いずみ会も祝賀会を催しました。本当に多くの先生方および、いずみ会会員が、母校の五十周年を祝って一堂に会しました。そこにはいずみ会を構成する五十の、ほとんどすべての期が集まりました。このことは、もうひとつの大きな意義だったと思います。

五十周年という大きなイベントだったからといえるかも知れませんが、協賛金のこと、祝賀会こと、このふたつの事実からみても、いずみ会にとって、創設以来の大きなパワーの結集が実現したといえます。その祝賀会開催準備のために、実行委員会を組織しました。昨年六月二十九日の第一回会合から十月十二日の本番の日を迎えるまで、約四ヵ月にわたって七十人の委員が毎月会議を開きました。

特に役付き委員となった方には、毎週土曜日に集まっていただき、いろいろ相談したり、作業したりしました。これはいずみ会の縦の関係からなるチームワークを作り出すことになり、まことに貴重な実績を築いたといえます。

## 五十周年をバネに

一昨年までのいずみ会の年間活動は、六月の第一日曜日にいずみ会総会を開き、あとは会長と幾人かの役員が母校との関連行事（文化祭、体育祭、卒業式＝いずみ会入会式）に顔を出していたという程度の状態だったということを考えると、昨年、母校の五十周年記念事業にかかわるいずみ会の活動は、人材的にも資金的にも、いずみ会創設以来の歴史的出来事であったといえます。

また、母校主催の記念式典では、4期の塚田先輩の記念講演および、やはり4期の栗林先生の独唱、さらに24期の玉利さんのチェンバロ演奏などが、式典に花をそえました。

このように、我々いずみ会は、各界で活躍しておられるすばらしい先輩をもっています。と同時に、母校を卒業し、毎年確実に入会してくるフレッシュマンによっても構成されています。いまや五世代にわたる一万八千人の会員数に成長しました。

さてそこで、いずみ会会員は、どんな同窓会活動をしているのか。皆さんのお話を要約しますと、次のようになります。

母校を卒業した直後から三十代くらいまでは、クラス会で付きあっています。四十代前後になってくると、同期会をやろうという話が出てくるようです。三十代後半から四十代前半あたりで、クラス会から同期会へと発展するということです。また、経験的な話になりますが、同期会が活発になると、その期はいずみ会全体の活動にもより強い関心を持ってくるようです。そして何かの機会があれば、いずみ会の行事に、より積極的に参加してもらえるようです。

昨年は、五十周年記念行事がまたとないチャンスとなり、いずみ会の活動が活発化しました。

同窓会活動というのは、クラス会―同期会―同窓会（いずみ会）という成長過程をもつものかなと思われます。

クラス会を楽しんでいる若年層の皆さんも、どうせなら早めに同期会開催に取り組んでください。そしてより積極的にいずみ会の活動に愛着をもたれるように、期待します。

結びに一言。

我々は、大泉高校で三年間学んだという、切ることのできない絆で結ばれている仲間です。これからもいずみ会会員の相互の親睦を深めること、ひいてはそれが母校の発展に役立つことを願って活動していきましょう。ここに事務局長として、昨年母校の五十歳を祝うことで結集されたパワーが継続するように、またさらなる飛躍のチャンスを求めていきたいと思います。重ねてご協力をよろしくお願いいたします。

## 「五十周年記念さくら基金」設立

田中公一先生のお話にもありましたように、五十周年記念の協賛会会計の残金約九十七万円をもとに「五十周年記念さくら基金」が設立されました。

現在母校には、正門からの並木やグラウンドの周囲などに、合わせて五十七本のソメイヨシノがあります。並木は中学1期の方々が卒業記念に植えられたものです、ということは、並木もまた、半世紀の歴史を刻んできたことになります。

このため弱ってきた木もあり、基金は木が枯れたときに、新しい苗木を買うことなどに使われる予定です。

さまざまの事思ひ出す桜かな　芭蕉

## 編集後記

▼昨年の五十周年祝賀会開催で大活躍された高11期の椎葉亮一さんから「有能な常任幹事がいますから、手間はかかりませんよ」と言われて、お引き受けしたのが、この会報担当の理事。お届けする第34号は、まさに有能な常任幹事の皆さんと、原稿をお願いした方々のご協力のたまものです。いわゆる「決まりもの」が多くて、文字ばかりになってしまいましたが。

▼それにもましてご協力いただいたのは、一光印刷社長、高6期の篠匡昭さんです。祝賀会でたいへんお世話になったのに続いて、今回も快諾いただきました。しかも、長い経験からの貴重なご助言もいただいた結果、これまでと一味違った紙面づくりとなりました。この場を借りて御礼申し上げます。

▼本号は、会長、副会長を含む、新役員を決めた四月二十五日の幹事会の報告を中心に編集しました。順番が逆になりますが、次号第35号で、昨年の五十周年記念事業や、記念祝賀会に関する報告を掲載する予定です。協賛金をお寄せいただいた方々の名簿も掲載いたします。

▼あわせて次号では、各期の代表幹事の名簿も掲載します。各期の会員の異動や、目立った動静その他なんでも、ふるって代表幹事までご連絡いただこうというねらいです。

（中村謙＝高18期）